

つかむ

調べる

まとめる

深める

～調べる視点を明確にして表にまとめることで、様々なメディアの特色を考える活動～

1. 小单元名『情報を伝える人々』

(教科書：『小学社会 5 下』 p.4～11／学習指導要領：内容（4）ア）

2. 小单元の目標

緊急時の情報の伝え方やニュース番組づくりを例に、情報産業やメディアの役割について調べ、情報が自分たちの生活に大きな影響を及ぼしていることを捉えさせる。

3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
大切な情報が多くの 人にすばやく届けられ ている仕組みについて 興味をもち、学習問題 をつくって意欲的に調 べようとしている。	情報を広く伝えるマ スメディアの役割につ いて調べたことをもと に、マスメディアの情報 発信における影響の大 きさや責任について考 え、適切に表現してい る。	教科書の写真や図か ら、様々なメディアを通 じた情報の発信の様子 について正確に読み取 っている。	情報を伝える人々の工 夫や努力、情報を伝える 際に気をつけていること などを理解し、状況や手 に入りたい情報に応じて メディアを使い分けるこ との必要性を捉えてい る。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小单元では、緊急時の情報の伝え方やニュース番組づくりを例に、放送、新聞などのメディアの役割や、情報が生活に与える影響について学習する。情報の伝え方や伝える人たちの工夫や努力を調べさせていくことで、情報の果たす役割の大切さについて捉えさせるようにする。また、東日本大震災の時の避難所の写真資料などを使い、当時の状況を考えさせていくことで、情報を受け取る側が置かれた状況によって、メディアを使い分ける必要があることをつかませたい。さらに、情報を発信する側と受け取る側の思いをそれぞれ考えさせることで、マスメディアの情報発信が自分たちの生活に大きな影響を与えていることを捉えさせる。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小单元では、テレビのような見慣れたメディアから、ラジオなど児童にとってはあまり馴染みがないと思われるメディアまで取り扱うため、今までの児童の生活経験について状況を把握しておく必要がある。馴染みのないメディアについては、現物を用意して提示するなど、できるだけ具体物や具体的な場面を取り出して自分たちの生活と資料を関連付け、興味・関心を引き出しながら授業を進められるようにしたい。各種メディアの特色については、児童に身近なテレビと比較することで、読み取ったことを整理していけるよう配慮する。また、調べてわかったことをペアやグループで話し合う時間を設けることで、活発な意見交換を促し、情報の共有や思考の深まりを図りたい。

5. 小単元の指導（総時数 4 時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	緊急地震速報が届く仕組みなどを調べることを通して、大事な情報がどのように人々に伝えられ、生活に影響を及ぼしているかについて、学習問題をつくることができるようにする。	○緊急地震速報のような大切な情報が届けられる仕組みを調べ、情報を伝える人々のはたらきや情報が生活に及ぼす影響について、学習問題をつくる。
① (調べる)	テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきについて捉えることができるようにする。	○テレビのニュース番組がどのようにつくられて放送されているのか、資料を読み取って調べ、わかったことを話し合っまとめる。
① (調べる)	震災時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色や、それらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性を捉えることができるようにする。	○東日本大震災の時に役立ったメディアに関する資料などをもとに、自分たちが日頃、様々なメディアから情報を手に入れていることを調べ、その特色や活用の仕方について話し合う。
① (まとめる)	放送局や新聞社で働く人たちが様々な注意を払って情報を発信していることなどを調べ、マスメディアの情報と自分たちの生活との関わりについて考えることができるようにする。	○マスメディアが伝える情報の違いや影響について調べ、マスメディアが発信する情報と自分たちの生活との関わりについて話し合い、考えをまとめる。

6. 本時の指導（第 3 / 4 時）

(1) 本時のねらい

震災時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色やそれらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性を捉えることができるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では、テレビや新聞、ラジオ、インターネットなどのメディアの特色を理解させ、状況に応じて様々なメディアを使い分けることの重要性を捉えさせたい。そのため導入では、被災地で使われていたメディアが、児童に馴染みのあるテレビではないことに注目させる。被災地の人がどのような方法で必要な情報を得ていたのかを写真資料から調べて、なぜ自分たちが普段からよく使っているテレビを利用していないのかに注目させる。その理由を予想させることで、置かれた状況や欲しい情報に応じて、使用するメディアも変わってくることを全体で共有できるようにする。

そして、ワークシート『こんなとき使うメディアはどれ?』を使って、ペアで様々なメディアの特色についてまとめ、考える活動を設定する。教師は「こんなとき」の条件を視点として与え、児童はそれらに理由をつけて表にまとめていくことで、様々なメディアの特色に気づけるようにしていきたい。その際、新聞・ラジオなど、用意できるものは教師が実物を用意して、児童が理由を考える際に役立てられるようにする。その後、発表の中で出てきた意見を整理し、メディアごとの特色を児童がまとめられるようにする。

このように、教師が調べる視点を明確にして、ペアで考えまとめる活動を設定することで、児童が主体的に表現できる場面をつくり、メディアの特色や使い分けの必要性を捉えさせることができると考えた。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○ア, イの写真を見て、なぜテレビやインターネットではなく、新聞や伝言メモで情報を得ようとしているのかを予想する。</p> <p>T: 前回、テレビのニュース番組づくりにおける工夫や努力を学習しました。でも、テレビではなく、他のものを利用している人たちがいます。これは東日本大震災の時の写真です。どのような手段で、情報を集めようとしていますか。</p> <p>C: 新聞です。</p> <p>C: 壁にたくさんはってある、メモのようなものを見ています。</p> <p>T: なぜ新聞やメモで、情報を集めているのでしょうか。</p> <p>C: 電気がないからだと思います。</p> <p>C: テレビを見ることができないからです。</p> <p>C: 携帯電話やパソコンのインターネットが通じないからです。</p> <p>T: 大きな災害が起こると情報を得る方法も変わってきそうですね。そこで、今日はこのことについて調べてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>テレビの他に、どのようなものを通じて情報は広く伝えられているのだろう。</p> </div>	<p>◎ア新聞を読む避難所の人々 (教科書5下 p.8)</p>  <p>◎イ避難所にはられた、伝言メモ (同 p.8)</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>資料の見方を確認し、視点やヒントを与えて予想させる。</p> </div> <p>◇情報を得る側の立場になって考えるよう助言する。</p>
5	<p>○テレビや新聞の他に思いつくメディアを挙げ、それらのメディアはどのような場合に使われるのかを話し合う。</p> <p>T: テレビや新聞のように、私たちに情報を伝えてくれる物や手段のことをメディアといいます。テレビの他に、みんなの周りにはどんなメディアがありますか。</p> <p>C: インターネット (パソコン・スマートフォン) です。調べたいことがあるときに使います。</p> <p>C: 新聞です。天気予報をすぐに知りたいときなどに見ます。</p> <p>C: ラジオです。車の中で交通情報が流れていたのを覚えています。</p>	<p>◎ウ避難所にはり出されたかべ新聞 (同 p.9)</p> <p>◎エ被災地へ生活の情報を知らせるラジオ放送 (同 p.9)</p>  <p>◇教科書の文章や写真などは、出た意見を補足する資料として活用する。</p> <p>◎実物のラジオ (ポケット式・充電式)</p> <p>◎実物の新聞</p>
15	<p>○具体的な場面を想定して (次頁ワークシート例参照)、どのメディアから情報を得るのがよさそうかをペアで考え、まとめる。</p> <p>T: テレビは、大きな災害が起こった場合、情報を得やすいメディアとはならなそうだとすることが先ほどわかりました。では、このワークシートを見てください。こんなとき、みんなはどのメディアを使いますか。ペアで理由も考え、表を完成させましょう。</p>	

C:「詳しく知りたいとき」は、インターネットがいいと思います。自分が気になる言葉で検索できるからです。

C:「詳しく知りたいとき」は、新聞でもいいと思います。「詳しくは〇〇に掲載」という文が1面であって、中をよく見ていくと、1面の内容がさらに詳しく載っていることがわかったからです。

C:「情報を残しておきたいとき」は新聞がいいと思います。記事を切り抜いて残せるので、何度も読んで確認することができます。

C:「駅で調べたいとき」はラジオがいいと思います。小さいので運ぶのが楽し、電池一つでいつでも使えるからです。

C:「駅で調べたいとき」はスマートフォンがいいと思います。ラジオと同じで小さいので運びやすく、電車で利用している人をよく見かけるからです。

◎津波によって打ち上げられた船 (同 p.40)



◎ワークシート (下図)

「停電になったら」の項目は教師が東日本大震災の時の写真を使って表を埋め、活動のモデルを示し、児童に見通しをもたせる。

ワークシート例

○こんなとき使うメディアはどれ？

	テレビ	新聞・雑誌	インターネット スマートフォン	ラジオ	どんなメディアが使いやすい？
(例) 停電になったら	×	△	○	○	電池で動くメディア
詳しく知りたいとき	△	○	○	△	疑問に思ったことを調べやすいメディア
情報を残しておきたいとき	×	○	×	×	見返すことのできるメディア
駅で調べたいとき	×	○	○	○	持ち運びできるメディア

- 10 ○話し合ったことをもとに、それぞれのメディアの特色を書く。
- T: 前回学習したテレビのニュース番組は、どのように情報を伝えていたでしょう。
- C: テレビでは、映像と音声で編集された、わかりやすい情報を伝えています。
- T: では今日話し合ってきたメディアには、テレビと比べてどんな特色がありましたか。
- C: インターネットは、回線がつながっていれば、いつでも知りたいことを詳しく知ることができます。
- C: ラジオは、身近な生活情報を知ることができ、電池一つでどこでも使うことができます。
- C: 新聞は文字や写真で情報を伝えます。自由に読み返せるところも、テレビとは違う特色です。

5 ○課題についてまとめる。

まとめ

情報はテレビ・ラジオ・新聞・インターネットなど様々なメディアを通じて伝えられている。特色に合わせて、メディアを上手に使い分けることが大切である。

- ◇テレビの特色については、前時の学習を生かして学級全体で文をまとめ、他のメディアのまとめの参考にする。
- ◎情報を伝えるさまざまなメディア (同 p.9)
- ◇は、出てきた意見を補足する資料とする。
- ◆各種メディアの特色を理解し、状況などに応じて使い分けることの必要性を捉えている。(知・理/ワークシート)